

利根日石新聞

今回の3月11日、東北地方太平洋沖地震や、十数メートルの津波で大勢の方の命が奪われてしまいました。

皆様に謹んでお悔みを申し上げますと共に、ご冥福をお祈りいたします。多くの避難生活を送っている皆様におかれましても、お見舞申し上げます。今だに行方不明の方もたくさんいらっしゃるの事、心が痛みます。

避難所で亡くなられた人、車の中で亡くなってしまった人、あかちゃんのオムツがなくて、1日バナナ1本と水1本だけの食事や、冷たいおにぎりやパン1ヶだけと聞いていただけで悲しくなります。私事ですが、震災前に岩手の旅館から1年前に宿泊したお礼にと、生のめかぶとわかめが家に届きました。おいしい新鮮な魚がたくさんあるとても素晴らしい場所でした。

昨年春に泊まった福島県寄りの北沢城の温泉地も、大変な津波だったようでとても悲しいです。

ある人は地震の2日後に岩手へ行く予定の方もいて、もしその時行っていたらと思うと言葉がありません。

生きている私達に出来る事、待機電力を節電したり、義援金を寄付したり、オムツやペットボトルの水を寄付したり、小さい事の積みかさねが大切だと、そして必要だと思いました。

また、地震後、全く油の入荷がなく、お客様に大変なご不便をさせた事を、心よりお詫び申し上げます。定期配達のお客様をはじめ、灯油のご注文のお客様。灯油がなく配達できない事を伝えると、「こんな状態だもの、いいわよ！節約して使うから。」とおっしゃってくださったお客様。「カイロ張って、節約するから、大丈夫！」とおっしゃってくださったお客様。どんなに助けられたことか!! 心暖い言葉を どうもありがとごございました! そして、電話等で何か初めての事は、はいえ、不手際のありました事もお詫び申し上げます。 今後は、お客様が安心できるように、電話対応等、心がけていきたいと思ひます。



ちなみに大地震後、続いた余震に子供達は毎回ビクビクして、「外に出ようよ!!」と慌ててましたが、最近はやと落ち着いて来た様子。とみいさん家の「はなちゃん」(シバ犬)は「クゥ〜!クゥ〜!」と揺れるたびに泣いてたそうです。

2009年11月1日
創刊
平成23年4月号
第000018号
発行
利根日石株式会社
本社販売管理課
TEL:0278-24-1635
FAX:0278-23-7980

3月11日に発生しました東北地方太平洋沖地震により被災した全ての方々に心よりお見舞い申し上げます。
 1万人以上の尊い命が奪われ、行方不明者も1万を超え、なお増え続けそうです。地震発生から20日ちかく経過していますが、未だに被害の全貌が見えないほどの未曾有の大災害を前に、ただ呆然とするばかりです。今はとにかく一人でも多くの方がご無事であることを、また避難されている多くの方々が一日も早く心休まるよう祈るばかりです。

東北地方で甚大な被害をもたらせた大震災の影響は、関東地方にも大きな影響をもたらせています。おもて面でもお詫びさせて頂いた通り、発生直後に石油製品の入荷がストップ、翌週から入荷は始まるものの、極端な入荷不足に陥り、皆様方に多大なるご迷惑をお掛けしてしまいました。誠に申し訳ありませんでした。

これは、私どもの仕入先であるJX日鉱日石エネルギーが操業している製油所のうち、仙台、鹿島、根岸の3製油所が地震の影響で精製が停止したことによるものです。加えて、東北地方に優先的に移送するため、極端な入荷不足に陥り、スタンドでの製品が極端に不足してしまいました。現在は根岸製油所が操業を再開したこともあり、前年とほぼ同程度の入荷量まで回復しつつあります。

LPガスにつきましては、石油製品に比べ被害が小さかったことや備蓄量が多かったことなどにより、供給に大きな問題は生じておりません。但し、ガス器具(ガステーブルや給湯機など)は部品メーカーが東北地方にあった製品なども多く、入荷に大きな遅れが生じているメーカーもございます。一方、太陽光発電や家庭用燃料電池「エネファーム」などの新エネルギー機器は部品メーカーにも被害は殆どなく、供給に問題は生じておりません。

地域に目を向けると、さらに大きな問題が発生しております。

伊勢崎のほうれん草などから規定値を超える放射性物質が検出されたことにより、政府は県内産のほうれん草及びかき菜に対して出荷自粛を要請しました。昭和村を始め利根沼田地域でも多くの方々が栽培に従事されていますが、これからという時期の出来事にやり切れない気持ちではないでしょうか。

スキー場や旅館など観光業も相次ぐキャンセルによって大きな被害が出ています。合板を始めとする建設資材の不足によって建設業も大きな被害が出ていますし、紙の不足によって書籍の入荷が遅れているという話もあります。地域内で影響の無い産業がないといっても良いくらい地域の中でも地震の影響は計り知れません。

加えて、片品村やみなかみ町など被災者の方々の受け入れを行っている地域もございます。被災地に赴き支援活動をされる方々は勿論ですが、身近なところでも、被災された方々のために昼夜を問わず奔走されるボランティアの方々には頭の下がる思いです。

石油製品の入荷が落ち着きつつあるので、私たちも出来ることから小さな支援を始めたいと思います。スタンドの待合室に募金箱を用意しました。また、給油のお客様にお配りする4月からのスタンプカードには通常の景品に一口500円の義捐金を加えました。夜間の営業時間は当面短縮し、営業時間中はサインポールなどの照明を節電いたします。

ご理解とご協力をお願い申し上げます。

通常4つの景品からお選び頂いていますが、4月からこれに加えて1口500円の義捐金をお選び頂けます。

2011 Spring & Summer SSスタンプラリー

利根日石沼田インター-S/S
TEL 0278 (24) 2348

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12
13	14	15	16
17	18	19	20
21	22	23	24
25	26	27	28
29	30	31	32
33	34	35	36

太陽光発電 停電時も家電利用可

「自立運転」で電力供給

住宅用の太陽光発電システムが、東日本大震災による停電を受けて発電して電力を供給する「自立運転」モードに切り替わります。同システムは、屋外に設置されたソーラーパネルが発電する電力を、屋内に設置するパワーコンディショナー(パワコン)という装置で家庭用の電力に変換し、通常の電力会社の電力と合わせて使用できます。

自立運転への切り替えは、一般的にパワコンがパワコンを停止させると同時に、パワコンを再起動させるという手順で設定ができます。パワコンの側面や下側に設けられており、天候次第で最大1000Whの供給が可能。容量の大きなエアコンなどを除き、多くの電気機器を使用できます。

震災で電力供給がストップした場合でも、太陽光が出れば自立運転が可能。関東や東北で同システムを販売するシャイン(前橋市)は、被災地へは昭和三村を除き、計画停電の範囲に入っていませんが、市外のお客様には活用頂くようになります。

←

平成23年3月30日付 (上毛新聞朝刊より)

には被災した顧客から「お湯が沸かして助かった」「携帯電話の充電ができて良かった」などの声が寄せられているという。夜間は使えない。雨や曇りの日も使用できないので注意が必要。